

農文協の本棚

医の根源 三つの角度から

▼患者の立場から……

『医の倫理』

村上國男著

1000円



肺結核サナトリウムの医師だった経験から、医師と患者の関係を論じ、その相互関係の変遷を説いた古典的名著。

『医学の不安』

沼田勇著

1200円



元軍医で引揚げ船の中のコレラ蔓延を医の原点に戻って防いだ著者が、医学の「進歩」に人類存亡の危機を見つめる。

『サービスタとしての医療』

中川米造著

1000円

患者の治療選択権をめぐって形式的なインフォームドコンセントをめぐって、医療サービスタ論を展開した著作。はな。

『病のかげに横たわるもの』

小崎順子著

1000円

「治す」と「治る」の目的が赤裸々に記録されていく。著者は地域通りの「はなま」の臨床医。

▼病は食から

『病いは食から』

沼田勇著

1400円

前掲『医学の不安』のなごり。著者による食と病の明解な関係論。

『食と健康を地理からみると』

島田彰夫著

1000円

妙な書名をあえてつけたとき、東北の大学教授がその不当を感ずる緊迫感をもって訴える『食とからだのエコロン』

『動物としてのヒトを見つめる』

無意識の健康

も同じ著者の本

『短命化が始まった』

農文協文化部著

1200円

長寿の村で育ったアヲをつくり食する山梨県原の食生活の変遷と東京通勤の子世代に「乱れ」を生み出した原因を調査した精緻な記事と健康への影響。

▼からだと心

『病いの効用』

瀬川毅著

1377円

副題は「からだの体験」の創意。この逆転の発想が体験してもかからだが創意するわけにはいかない心体の不思議。

『いっしょに治る』

橋本行生著

1000円

東西の医学を極めた名醫の、こがらがった現代病の豊富な治療例。読者はそこから、では私ほど考え始める。

『かごと』

文かごと

各1000円

誰もが説く心と心の「みなが見よう」第1巻「わたしがねむりやすくなるには」第2巻「わたしがねむりやすくなるには」第3巻「わたしがねむりやすくなるには」第4巻「わたしがねむりやすくなるには」

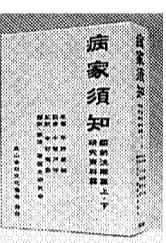
「幕末の赤ひげ」が遺した 庶民のための家庭医学・看護の本

『病家須知ひょうかすち』、初の現代語訳

全3巻 原著・平野重誠 / 監修・小曾戸洋 北里研究所東洋医学総合研究所歴史学研究室長 / 監訳・中村篤彦 松栢堂医院院長 / 編著・看護史研究会 定価29000円(分巻不可)

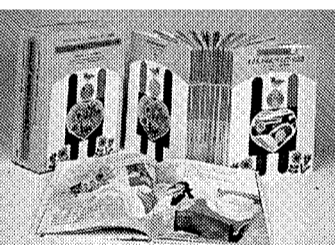
平野重誠(1790-1867)は、

1867)は、將軍の主治医を務める多岐にわたる才力に目撃されたエリートであったが、官職につかず町医者として庶民の治療に専心。四二歳になって病を患った「病家須知」(18)を守りながら、病の回復を願った。32年(天保3年)でして研究者には知られて



たどる。幕末の赤ひげが遺した庶民のための家庭医学・看護の本。『病家須知』は、幕末の赤ひげが遺した庶民のための家庭医学・看護の本。『病家須知』は、幕末の赤ひげが遺した庶民のための家庭医学・看護の本。

病のケアもいろいろ。健康を専門家まかせに……。『病家須知』は、幕末の赤ひげが遺した庶民のための家庭医学・看護の本。『病家須知』は、幕末の赤ひげが遺した庶民のための家庭医学・看護の本。



内容案内進呈



農文協 伝え、創る〈伝統〉

ふるさとのおいしさを伝える 全13巻完結

文・奥村彰生 子どもの心に伝わる、一緒に作るふるさとのおいしさを伝える。日本のおいしさを伝える。アルブック。A・B判。小・中・高。全13巻完結。

1 北海道・東北	1 1
2 東北2 宮城・山形・福島	1 1
3 北関東 茨城・栃木・群馬	1 1
4 首都圏 埼玉・千葉・東京	1 1
5 甲信越 新潟・山梨・長野	1 1
6 北陸 富山・石川・福井	1 1
7 東海 岐阜・静岡・愛知	1 1
8 近畿 滋賀・京都・大阪・兵庫	1 1
9 中国 徳島・香川・愛媛・高知	1 1
10 四国 高松・愛媛・高知	1 1
11 九州 福岡・佐賀・長門	1 1
12 九州2 大分・宮崎・鹿児島	1 1

全12巻 定価17200円